

# 岩手教区報

第399号  
 立教189年3月1日  
 天理教岩手教務支庁  
 盛岡市馬場町3-40  
 TEL 019-622-7962  
 FAX 019-623-9597



## 学生層育成に心を向けて 学生担当委員長 鈴木眞浩

教祖140年祭当日、「おかえりなさい！」とおちばで学ぶ天理高校の生徒たちが、帰参者一人ひとりに笑顔で声を掛ける姿が神苑のあちらこちらで見られました。大勢の帰参者が喜びの笑顔にあふれ、より一層勇み心で参拝に向かう姿がそこにありました。

私は天理大学在学中に教祖110年祭を迎え、120年祭からは教会長として、そして今回は、家族揃って参拝した初めての年祭となりました。長女は本部勤務の傍ら帰参者の受け入れに尽力し、大学生、高校生、中学生の子供たちは学校を休んで帰参しました。学生会時代共に活動した仲間たちとの出会いもあり、それぞれの時の流れによる変化と、おちばに思いを寄せる変わらぬ姿に喜びを感じました。

昨年の学生担当者大会で中田善亮表統領は、一昨年の真柱様のメッセージを引用され、「陽気ぐらしの世の中は、いく世代もかけて、誤りなく受け継ぎ、受け渡してこそかなうことですから、その時代その時代に教えを正しく伝える工夫は必要であります。しかし、ここで気をつけなければならぬことは、教えを理解しやすいようにと工夫することが、かえって、教えの筋道を曖昧にしたり、自分勝手な思案の仕方に導くこ

とにもなりかねないということでもあります」とご指摘下さったと話され、更に中田表統領は「変えてはならない教えが、そのつもりはないのに、いつの間にか変わっていつてしまうということは、教祖からご覧になればとても残念なことに違いはないと思います。担当者のみならず、教会が一手一つに若い人の育成にいつも心を向けて、それぞれの役目を果たしていただきたいと願います」とお話しくださいました。

学生という若年層の時期は、砂漠に水を撒くがごとく、様々なことをいっせきに吸収していきます。だからこそ、親神様の御教えを丁寧に正しく伝えさせていたいただきたいと思えます。

教祖140年祭を勤め終えた今、「三年間の努力のうえに立った歩みが続けていかなければならないと思えます」との真柱様のお言葉をしっかりと心に治め、身の回りに起こることや、見聞きする様々な事柄を真摯に受け止めて通らせて頂きたいと思えます。

来たる3月28日、「教祖140年祭学生おちばがえり大会」がおちばで開催されます。この機会にひとりでも多くの学生に参加して貰えるよう積極的な声掛けと、心に肥を蒔いていただくことをお願い致します。



### 「教祖百四十年祭から明日へ」

教祖百四十年祭に参拝させていただきました。神苑には椅子が並び、多くの参拝者がそれぞれの思いを込めて、祭典の開始を待っていました。華やかな雰囲気の中、祭典が始まりました。かぐらづとめ、そして、十二下りのておどり、厳かな中にも、祭典が進んでゆきました。

真柱様のお言葉を拝し、それぞれの帰途につく人々を見ながら、去り難い気持ちで中庭に留まっていた。いつもの春季大祭では、神殿講話の最後が、教祖のお隠れの時間に重なるのですが、この日は午後2時になる前に祭典が終了していたのです。不思議だなあと思いつつながら、突然、教祖殿から、大亮様の奏上する祭文が聞こえてきました。

「ああそうだ。教祖は、おつとめの音を聞きながら、お隠れになったのだなあ」。当

時は、官憲の取締りに備えて、重ね着をし、おつとめを勤められたとの記録があります。この日も、曇り空で気温が低く寒い日でした。参拝者は、教祖の監獄へのご苦勞や明治20年を思い浮かべながら、むしろ、この寒さに喜びを感じている様でした。教祖殿で奏上される祭文を聴き、いろいろな思いを巡らす中で、「このために、今ここにいるのだ」という、思いが込み上がってくるのでした。

私たちは、どこから来て、どこへ行くのか。この素朴な疑問に、陽気ぐらし世界の建設という、シンプルでストレートな答えを私たちの信仰は示して下さっています。今の世界を眺めると、好調な経済や科学技術の発展とは裏腹に、心配なところがあります。1月29日の厚生労働省の発表によると、昨年の小中高生の自殺者数は532人。統計を取り始めた昭和55年以降最多とのこと。最近では、子供は、両親や友人よりも、生成AIに相談するケースが多い様です。相手が機械なので、引きずらないと言う理由もあるのでしょうか、生成AIは寄り添う様な対応もしてくれます。一方において、AIチャットボット(人間と会話している様な自然な対応をするプログラム)は精神の病を

引き起こすなどの研究もあります(ネイチャー誌、第18巻、646頁、令和7年)。身近な大切な人の相談の受け手になれないのかも知れない。こういう時代だからこそ、普段から、家族や友達との会話、お道なら「ねりあい」など、コミュニケーションを通じて、お互いを理解し、私たちの目指したい社会を再確認したいものです。

### 計報

高橋 邦武 さん(93歳)  
 盛岡支部・盛岡分教会前会長  
 令和8年2月17日出直された。

### 行事予定 【3月分】

- 1日 教区献血推進研修会(10時)
- 〃 役員会議(11時)
- 8日 青年会ひのきしんデー(10時)
- 14日 災救隊例会(18時)
- 16日 婦人会例会(10時)
- 26日 教祖140年祭学生おちばがえり大会  
 東北ブロックバス団参(29日)
- 28日 女子青年例会(10時)
- 29日 教職員第4回役員会(10時)



令和8年度 岩手教区行事予定

- 4月29日 全教一斉ひのきしんデー
- 5月31日 教区献血ひのきしん
- 6月1日 決算地方委員会
- 6月14日 祭事部雅楽勉強会
- 6月21日 岩手っこだよ！全員集合！
- 6月21日 育成に役立つ研修会
- 6月28・29日 災救援隊教区訓練(九戸)
- 7月18日 婦人会後継者勉強会
- 7月5日 教職員の集い総会
- 8月11・12日 夏の勉強会
- 8月30日 陽気フォーラム
- 9月21日 少年会「わかぎの集い」
- 9月28・30日 道の学生ひのきしんDAY
- 10月16日 全教一斉をいがけデー
- 10月16日 教区剪定ひのきしん
- 10月18日 婦人会員の集い
- 10月31日 祭事部おつとめ勉強会
- 11月26・27日 災救援隊白川ひのきしん
- 11月29日 少年会おつとめ総会
- 12月 学生の集い「まなびば」
- 12月 学生会総会
- 1月16日 予算地方委員会
- 3月1日 教区献血推進研修会
- 3月14日 青年会3・11ひのきしんデー



青年会

「青年会ひのきしんデー」

「あの日を忘れない」

【3月8日】

東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から、今年3月11日で15年を迎えます。

教区青年会では、被災された沿岸部のひのきしんを通して、改めて震災に対して心を寄せ、今後何が出来るかを考える機会にしたいと思います。

青年会員のみなならず、1人でも多くのご参加をお願いします。

記

日時 3月8日(日) 10時集合  
12時解散

場所 大槌町吉里吉里海岸

内容 ごみ拾い、他

持物 長靴、火バサミ、軍手

申込み 村松義朗教区青年会委員長迄

※昼食は教区青年会で用意します。

※レインウェアなど濡れても良い服装でご参加下さい。



学生担当委員会

「教祖140年祭」

学生おぢばがえり大会」

「道につながる学生」

おやさまのもとへ」

【3月28日】

立教189年3月28日(金)、本部中庭において「教祖140年祭学生おぢばがえり大会」が開催されます。

年祭ごとに開催されている本大会は、「みんなで勇んで、みんなで作る、優しさ」と笑顔あふれる大会を」をテーマとして、全国各地からたくさんの方の道生が参加します。当日は本部中庭で式典が行われ、真柱様からメッセージを戴きます。その他にも前夜祭、直属アワー、各教区との交流会、別席などがあります。

今回は東北6教区の学生担当委員会と学生会が合同でバス団参を企画しました。東北の道につながる仲間と共に、元気におぢばに帰り集い、教祖にお喜びいただきたいと思ひます。

日程等は、チラシを参照していただき、一人でも多くの学生に参加していただければ、お声掛けをお願いします。



道友社

「社友研修会」報告



教区社友会は2月7日(土)、教務支庁を会場に「社友研修会」を開催、教区内の支部社友ら8人が参加した。

高橋邦之代表社友の開催挨拶に続き、道友社制作のメッセージ動画を視聴。先ず諸井道隆道友社長が道友社の目指すところを話され、続いて、編集出版課、音声映像課、業務課の各課長がそれぞれの業務内容を詳しく紹介し、社友の役割を細部に渡って示された。

小休憩の後、道友社とインターネット回線で繋ぎ、諸井社長が本社からオンラインで参加する形式の質疑応答となった。質疑に応じた諸井社長は、「天理時報」の現状と発行体制の変更点や岩手教区の手配りひのきしんの現況、また、読書会の今後やSNS、音声映像メディアの取



祭事部

「祭儀式勉強会」報告

教区祭事部は1月31日(土)、教務支庁において、祭儀式勉強会を実施し、14人が参加した。今回は、講師の鈴木眞理東山分教会長による、告別式の講義と実演が行われた。

はじめに基本となる作法を確認した後、立式による告別式を7人制と3人制で務める場合の作法について、齋員



献血推進委員会

「献血呼びかけひのきしん」報告

教区献血たすけあいの会は、2月14日(土)、イオンモール盛岡にて実施された、岩手県赤十字血液センターの「バレンタイン献血2026」に盛岡支部の教友3人が参加した。

指定された場所で献血のプラカードを持って、行き来する人々に献血への協力をお願いした。場所によっては声出し厳禁で、会釈程度しか出来なかったのは残念だったが、多くの方に協力いただく献血状況となった。

午前中の受付は少なかつたものの午後には徐々に増え、結果として39名が受付し、200ml1名、400ml33名が採血した。